

令和4年2月1日に思う

大谷一二前川上村長様

今日までの数多のご功績を偲び深く哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

細身ながらも眼光鋭く前を見据えたお姿は、「ブレない政治家」を物語っていました。

これまで共に過ごした時間は、「ダムで栄えた村はない」への抗いであり、挑戦そのものでありました。

過疎対策や少子高齢化など、わが村を取り巻く環境が厳しい中、国家的プロジェクトである大迫ダムと大滝ダム建設事業は、小さな村を翻弄し、揺り動かすものであり、村民感情もさまざまにあるところ、重大な岐路において果敢に立ち向かい、剛毅不屈の精神をもって陣頭指揮をとられました。村再生の道を「ダムを逆手にとる」として吉野川の最源流に位置する原生林を購入し、保全活動に取り組むとともに、環境保全や水源地保護を強力に推進してきたことが、内外より高い評価をいただきました。

また町村合併においても、おおよその町村が前のめりになる中、わが村にあっちは「まずは直面するダム問題を解決することが先決」として議論の輪に加わらなかったことも評価されているものであり、その後の結末を見ても明白であります。

時の流れを読み取りながらも、苦渋の末の政治力は、今を生きる私たちがしっかり紡ぎます。

どうか安らかに眠りください。合掌。

川上村長 栗山忠昭